

土井 亨 国土交通副大臣



- ・私も宮城県仙台選出、3.11東日本大震災から5年を迎え、福島の皆様にお苦しいお暮らしが続いている。岩手、宮城、福島ともに復興の歩みを途絶えることなく進めてまいりたいと考えている。
- ・都南川目道路川目～田の沢間が開通を迎えることができましたのは、用地提供の皆様、事業推進に協力いただいた関係者のおかげ、御礼申し上げます。
- ・震災から5年、東日本大震災では、避難や緊急物資輸送など命の道として機能し、教訓を踏まえ横軸の重要性がクローズアップされ、復興支援道路の着手に結びついたもの。地元の皆様のご要望も大きく貢献したと認識している。
- ・被災した三陸沿岸地域の安全安心、復興支援、内陸部へのアクセス改善に向け全力で取り組んでいるところ。
- ・今回の開通は、築川道路とのネットワーク化により、物流の効率化、地域産業の活性化を支援、観光周遊圏の拡大など、さまざまな効果が期待でき、三陸沿岸地域の早期復興に大きく貢献するものと考えている。
- ・また、皆様方のご尽力により、平成30年には、岩手県初の宮古-室蘭間のフェリー定期航路開設が予定されている。宮古港を基点とした、新たな観光ルート形成による観光客の増加等の効果が発揮されると期待され、国交省としても一緒に取り組むことを決意しているところ。
- ・宮古盛岡横断道路の他の区間につきましても、早期完成に向け努力して参ります。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。
- ・岩手県、東北地方の1日も早い復興に全力で取り組むことをお誓い申し上げ、挨拶いたします。

達増 拓也 岩手県知事



- ・地域高規格道路 宮古盛岡横断道路 は三陸沿岸の拠点都市宮古市と県都盛岡市を結び、北東北の産業・経済・文化の発展を支える幹線道路である。都南川目道路は平成9年度に直轄権限代行として事業化され、震災後は復興支援道路として鋭意整備を進められた。
- ・これもひとえに地権者の皆様はじめ、地域住民の方々、国交省をはじめ関係各位のご尽力、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。
- ・本路線整備により、宮古盛岡間の所要時間短縮、定時性確保、緊急時災害時の信頼性確保など直接的な効果の他、産業振興・観光振興など様々なストック効果が期待される。例えば、三陸の新鮮な水産物をより広範なエリアに直送できるようになり新しい販路拡大に期待できる。
- ・また、平成三十年春に予定されている宮古港と北海道の室蘭港を結ぶ県内初のフェリー定期航路と一体となつての物流の強化や重点道の駅に選定され三陸のゲートウェイとして整備される『道の駅たろう』との連携による三陸沿岸と内陸部の周遊観光の活性化や
- ・そして、来年開催する「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」の会場への円滑なアクセスにも大きく寄与するものと思っているところ。
- ・岩手県では、本年を「本格復興完遂年」と位置付け、関係者の皆様と一体となり、復興道路・復興支援道路をはじめとした復興事業の推進と、ふるさと振興に、県の総力を挙げて取り組んで参りますので、皆様の御支援と御協力を賜るようよろしくお願い申し上げます。

谷藤 裕明 盛岡市長



- ・未曾有の被害をもたらした東日本大震災から五年、「宮古盛岡横断道路」について、かつてないスピードで事業が進められていることに国、県、関係者のご尽力の賜と心より感謝申し上げます。
- ・本市は、震災から沿岸被災地に寄り添う復興支援を行うと共に、「宮古盛岡横断道路」の早期全線開通について、関係機関に要望を重ねてきた。
- ・全線開通により、宮古・盛岡間の移動時間が短縮され、物流の効率化は勿論、これに伴う地域産業の活性化、周遊観光圏の拡大による経済効果、また、沿岸部から内陸部の高次医療施設への救急搬送や医療活動の安定性・迅速性の確保など、ストック効果が発揮されることに期待できる。
- ・本市としては、復興・創生期間に相応しい地方創生を代表するモデル地区となるよう、広域連携を一層深め、広域ネットワークの確立による内陸・沿岸部の経済活性化に向けた事業展開を行っていく。
- ・市内沿線の地域の方々には、本路線の開通により、生活利便性の更なる向上が図られ、生活圏が拡大することとなり、本市の総合計画に掲げる基本目標「人がいきいきと暮らすまちづくり」の達成のための大きな力のひとつとなるものと確信している。

高橋 ひなこ 衆議院議員



- ・都南川目道路開通にご尽力された皆様に感謝申し上げます。
- ・県が管理している国道106号は、国交省が北東北の太平洋と日本海を結ぶ横断道路として重要と位置づけて力添えをいただき、整備してきた。6年前の政権交代時には、公共事業の抑制が掲げられ費用対効果が薄いと凍結の動きがあり、県、市、地元が必死に要望し、国交省のお力添えをいただき、事業が再開することになった。そのことにも敬意を表します。
- ・米内中学校の創作劇、すばらしいもの。地元の方々の声も中学生に届いているのかと思います。
- ・被災者の方々に何うと道路がないと何もできない、災害に備え、政策として道路が重要。しっかりやってもらいたいと言う話をいただく。
- ・土井副大臣から道路の重要性の話をいただいたが、創作劇でも「誰かの痛みは自分の痛み、道を通すことは、人と人の心を通わすこと、道が啓けば支援物資も来やすくなる。」とありましたが、道路は人と人、心と心をつなぐ重要なものと考えている。
- ・岩手県、地元の方々の悲願の道路の開通にあたり、お祝いの言葉いたします。

主演 了 参議員議員



- ・岩手県、盛岡市、国土交通省はじめご尽力された方々に、また、この道路のために土地を提供くださった皆様に感謝と敬意を表する。
- ・道路の意義は、生活の基盤、産業の基盤であり、生活水準が向上し、産業が発展するとそれに伴った道路が必要である。
- ・一旦作ってこれではではなく、社会情勢にあわせていく必要があると思っている。今後とも整備をよろしくお願いいたします。
- ・国道106号は沿岸と県央を結ぶ道路。沿岸、県央、沿線の方々、そして岩手県の発展につながるもの。
- ・昭和48年に宮古で働いた。約45年前、前岩手国体の直後でした。片道3時間半かかった。今は、2時間弱でありがたい。
- ・沿岸部、県央部の利便性は向上したと思っている。あともう少し頑張って、繋いでいけるよう頑張っていたいただきたいと思います。

田鎖 健一 (株)エフビー代表取締役社長



- ・弊社は、山田町豊間根にあり、スマートフォン等に使われるコネクタとよばれる電子部品の製造をしております。
- ・宮古市、下閉伊地域は、1次産業に加え、金型・コネクタ産業が主力産業となっております。
- ・国道106号は、狭小、急カーブが多く、渋滞の慢性化等がネックとなっていました。
- ・この道路の開通は、内陸と沿岸の連携を推進し、全産業において期待が大きく、何よりも被災地復興の加速が期待される。
- ・震災を知らずに生まれてくる子供達が、この道路からたくさんの方々の可能性を見出し、岩手県並びに宮古・下閉伊地域に多大なる貢献をしてくれるであろうと期待している。
- ・また、弊社も山田町から出ずに、地域に感謝、還元していきたいと思っております。
- ・今回の開通にあたり、これまでの関係の皆様への御礼を申し上げるとともに、全線開通に向けて更なるお力添えを賜るようお願い申し上げます。

宮古盛岡横断道路 都南川目道路 川目IC～田の沢IC 開通式 発言要旨 -H28.3.12-

南館 圭 岩手県建設業協会女性マネジングスタッフ 宮古支部



- 宮古市は本州最東端にあり、東は太平洋、西は早池峰山をはじめとする北上山地を臨む、自然豊かな町。
- 浄土ヶ浜は平成18年度には「日本の海水浴場百選」で海の部特選、平成24年度には国指定名勝に選ばれるほどの自慢できる絶景。
- 豊かな漁場に育まれた水産業や広大な山林を有することによる林業などの産業が盛んで、まさに自然と共存してきた町。
- 平成23年3月11日東日本大震災により、見慣れた町は一変した。建物は破壊され、道路にはガレキが散乱、現実とは思えない凄惨な状態。私の住んでいた家も津波にのまれ家族は無事だったものの、多くの尊い命と、多くの方が大切な財産を失い、落ち込む日々。
- 辛い状況の中、震災直後、地元の建設関係の方々が立ち上がり道路を少しでも通ることができるようにと、重機を使って散乱しているガレキを取り除く作業を始めた。町の人たちの為に働く人の姿を見て、私は心を打たれた。
- そして、今まで当たり前であった道路の大切さを知った。
- 私は、幼い頃からクラシック・バレエを習い、幼い頃は、宮古にバレエ教室がなく教室のある盛岡まで毎週106号バスで祖母に連れて行ってもらった。しばらくして宮古にもバレエを踊りたい子供達が増え、毎週盛岡から車で往復4時間かけて先生が教えに来ている。
- しかし、国道106号はカーブや勾配が多く冬になると危険を増し、とても心配。それでも先生は、バレエが好きな子供たちのために毎週休まずレッスンを教えに来て下さる。
- 宮古盛岡横断道路が完成すれば、先生も盛岡までの道のりが少しは楽になる。
- 私のように習い事で盛岡に通うのが困難な子供たちがいます。距離によりやりたい事を諦めてしまった子もいるかもしれません。
- 私は岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会で、子供たちが安全安心で健やかに過ごせるをテーマに子供たちの視点にたち様々な活動をしています。未来の子供たちの夢を運んでくれる道になるように、宮古盛岡横断道路が早く完成することを望んでいます。
- 宮古市をはじめ被災地沿岸市町村の復興のため、三陸沿岸道路と宮古盛岡横断道路の早期完成に、私たちは大きく期待を寄せている。
- 命の道、希望の道である三陸沿岸道路と宮古盛岡横断道路の早期整備開通を強く願います。

山本 正徳 宮古市長



- 私の期待の話を言うまでもなく、田鎖さんと南館さんに全てを話していただいた。
- 国道106号は県都盛岡市と三陸沿岸地域を結ぶ重要なルートと認識。この道路あって、東日本大震災でしっかりと支援いただいた。
- 我々の地域医療、ドクターヘリは大事だが、北上山地は気候厳しく、しっかりと道路整備がなければ沿岸地域の健康を守ることはできない。宮古盛岡横断道路が整備されることは、命を大事にすること。
- 我々の要望してきた努力が、一つ一つがこのように実を結ぶものと思っている。それにより、カーフェリーの話もいただいた。
- この沿岸地域と内陸地域、経済的な格差もある。道路が整備されることにより、経済格差も少なくなるだろう。岩手県の海の良さ、内陸の良さをしっかりと結びつけるのがこの道路と期待している。
- 震災から昨日で5年、ご尽力いただいた国土交通省、県、関係機関の皆様には感謝を申し上げます。
- 沿岸地域、前を向いて歩けるようになっていると実感している。
- これからも三陸沿岸地域の復興、地域創生目指し、宮古盛岡横断道路が1日も早く供用できることを願い、期待の挨拶とします。

--	--

--	--

--	--

--	--